

埼玉親善大使・フィンドレー大学平成27年度派遣奨学生

月例報告書・4月 徳永美友

昨年8月から滞在していたフィンドレーの生活もついに今月で最後となりました。色々なものが最後の取り組みになっていくことに寂しさを感じます。今月の報告書では、International Night、副知事表敬訪問、Woodrow Wilson Visiting Fellow programそしてアーミッシュコミュニティについてお話ししたいと思います。

<International Night>

4月の中旬に、International nightがありました。International nightは、フィンドレー大学の各国からの留学生が主体となって行われるイベントで、各国のブースやステージでのパフォーマンスを通して様々な国の文化に触れ合うことができます。例えば、インドのブースではヘナタトゥーの体験ができ、当日は多くの女性の手に可愛らしいデザインのヘナタトゥーを目にしました。日本のブースでは書道の体験、日本のおもちの展示、うどんと巻きずしの試食等を行いました。私は、小野さんとお抹茶を点てつづけ、アメリカ人の学生から教授、留学生など多くの方に振る舞いま



日本ブースには忍者もいました。

した。また、各国10分のパフォーマンス時間があり、今期の日本人留学生のみんなと一緒に時代劇風の短い劇と、ソーラン節を踊りました(写真上)。International nightの時期は期末テストと同時期で忙しく、夜の11時から練習に集まることもありました。限られた時間の中で準備を進めていくのは大変でしたが、当日本当に多くの方が日本のテーブルやパフォーマンスを見てくださ

って、たくさんの温かい言葉を頂き嬉しかったです。また、日本人の留学生のみんなと一緒に最後にソーラン節を踊ることができ、International nightという思い出を作れてよかったです。当日はクラスメイトや友人にも立ち寄って頂き、書道のブースで書いた作品を私にくれる友人もいました。半紙を見ると、私の名前とともに大きく「友達」という字が書いてあり、私の心が温まりました。

<副知事表敬訪問>

インターナショナルナイトの前々日、オハイオ州の副知事メアリーテイラーさんにフィンドレー大学の川村先生、埼玉県からの機械系派遣奨学生である諫山さん、八木さんと一緒に表敬訪問をしました（写真右）。副知事はとても



気さくで話しやすく、アメリカ文化について、アメリカのどこに行ったかなどを話しました。埼玉県の親善大使として留学していたからこそ副知事にお会いできたことを非常に光栄に思います。副知事表敬訪問のあとは、Job's Ohio という、埼玉県庁とも繋がりの深いオハイオの経済開発団体を訪問しました。私たちはそこで親善大使としての留學生活の報告プレゼンテーションを行いました。親善大使として、1年間の自分の活動を振り返るいい機会にもなり、このような場を設けてくださったことに感謝しております。

<Woodrow Wilson Visiting Fellow program>

Woodrow Wilson Visiting Fellows program は、著名な芸術家や、ビジネスリーダー、ジャーナリストや外交官などそれぞれの分野での専門家を大学にお招きし、1週間の滞在で授業やセミナー、講演会やディスカッションを通して学生や教職員が大学で学んでいることがどう社会に関わっているかを考えるプログラムです。フィンドレー大学では、2011年からこのプログラムに参加しており、過去には boston globe という日刊新聞のライターや、ニューヨーク最高裁判所の裁判官などをお招きしました。このプログラムの開催にあたって毎年全校生徒の中から20名アンバサダーとしてノミネートされます。今年度のアンバサダーとして私はノミネートされ、その一員としてゲストを迎えさせていただきました。今年のゲストであった2000年から2015年まで女性有権者連盟の専務取締役をしていた Nancy E. Tate さんを、アンバサダーとしてエスコートし、様々なイベントと一緒に参加しました。特に印象に残っているのが、Nancy さんが講演でお話ししていたアメリカの選挙制度の複雑さについてです。市民はまず、有権者登録をして、有権者としての資格を取ることが選挙に参加するために必要になります。有権者登録の方法は州によって異なり、有権者登録は移住地でしかすることができず、引っ越しをしたらその度にしなければなりません。また、投票時に本人確認のためのIDを提示しなければいけない州も多く、IDの取得には費用がかかることや書類取得の手間など、米国における選挙の問題についてお話しされていました。アメリカの選挙の方法がこんなにも日本と異なる

るということをお話しを聞くまで考えたこともありませんでした。アメリカで連日報道されている大統領選挙についての番組を見る度に、人々が自由に選挙に参加しているイメージがありましたが、実際は多くの手続きを踏む必要があり、一部の人にとってはそれが難しく選挙に参加できない人もたくさんいることを知りました。

<アーミッシュコミュニティ>

フィンドレーから車で一時間ほど行ったところにある、オハイオ州のケントンという地域に住んでいるアーミッシュのコミュニティを訪問しました。アーミッシュはキリスト教の宗派の一つであり、聖書に書いてあることに忠実に従って暮らしています。車や電子機器はなく、服も手作りで現代文明に頼らず自給自足を主とした生活を行っているドイツ系移民です。

仲介してくださる先生を通して、アーミッシュの畑や通う学校など、アーミッシュのコミュニティを車でまわりました。その後アーミッシュの Beechy さんの家庭を訪問しました。刺繍や洋服を作る為の部屋、リビング、キッチン、娘さん二人の部屋、これから植える野菜の苗などを育てている部屋があり、お手洗いは外に設置されていました。家の隣にある、



牛や馬の小屋も見せていただき、馬車にも乗らせてもらいました（写真右上）。夕食はチキンと細かく切ったポテトを茹でたもの、パスタのスープ、自家製の蜂蜜とパン、食後には果物たっぷりのケーキを頂き（写真下）、Beechy さん家族と私たちが談笑しながら楽しい時間を過ごしました。仕事から遅れて帰ってきたお兄さんも合流して日本の歌、アーミッシュの歌とお互いの歌を披露しました。生まれた時から、現代文明による便利なものに囲まれていて、暗くなったら電気をつけて、出かけるときは車や電車に乗り、携帯で友達や家族と連絡を



取り、溢れるほどの便利なものに囲まれてきてそれが当たり前だと思って暮らしてきた私たちと、生まれた時から俗世界からかけ離れた生活をしてきた Beccy さん一家。私たちと異なる点をあげたら、きつときりがありません。しかし国境だけではなく、そんな相違点も全て超えて、恋人はいるの？なんていう他愛のない会話などで笑って、歌を楽しむこと

ができて、どんなに育ってきた環境や人種が異なっても同じ人間で、お互いを尊重することで分かち合うことができると感じました。帰り際に、お兄さんが「今日はもっと早く帰ってくるべきだったな」と言ったときには、本当に楽しい時間をお互いに過ごせたことを実感し嬉しく思いました。

<最後に>

これで私の昨年8月から書いていた月例報告書も最後になります。拙い文章で伝わりづらいところもあったかと思いますが、読んでいただいたみなさまありがとうございました。私の報告書を通してフィンドレー大学について、またオハイオ州について少しでも多くの人に知っていただき関心を持っていただけていたら光栄です。